

日頃は、大変お世話になっております。  
不動産、建築、社会・経済等のニュースレターです。  
お時間のある時に気軽に読んで頂き、少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

## 実質 GDP3.1%増 4~6月、消費上昇で2四半期ぶりプラス

060815

内閣府が15日発表した4~6月期の国内総生産(GDP)速報値は物価変動の影響を除いた実質の季節調整値が前期比0.8%増、年率換算で3.1%増だった。2四半期ぶりのプラス成長となった。自動車の品質不正問題の影響が一巡し、個人消費や設備投資が持ち直した。

QUICKが事前にまとめた民間予測の中心値の年率2.3%増を上回った。4~6月期の名目GDPは年換算で607兆円となり、初めて600兆円に達した。前期比1.8%増、年率換算で7.4%増と2四半期ぶりのプラスだった。



GDPの半分以上を占める個人消費は実質で前期比1.0%増で5四半期ぶりのプラスだった。ダイハツ工業などの品質不正の影響で止まっていた生産や出荷が再開し、前期からの反動で自動車の消費が回復した。

内閣府の担当者は「個人消費の増加分の半分は自動車が占める」と説明した。自動車以外の耐久財でエアコンや携帯電話が堅調だったほか、外食や衣服向けの消費も増加に寄与した。野菜や証券関連手数料など金融サービスはマイナスだった。

収入の動きを示す雇用者報酬は実質で前年同期比0.8%増加し、11四半期ぶりにプラスに転じた。国内の総合的な物価動向を示すGDPデフレーターは前年同期比3.0%上昇した。消費に次ぐ民需の柱である設備投資も0.9%増と2四半期ぶりにプラスに転じた。ダイハツ工業の問題が解消し、商用車など普通乗用車向けの投資が増えた。業務用コンピューターやソフトウェア投資も伸びた。

輸出は1.4%増と2四半期ぶりに増加した。自動車の出荷が増えた。計算上は輸出に分類するインバウンド(訪日外国人)の日本国内での消費は前期比で4.2%のマイナスだった。イースター休暇が3月末までだったことが影響したとみられる。

輸入は前期比1.7%増で2四半期ぶりのプラスだった。業務用コンピューターが増えた。

前期比年率の寄与度は内需がプラス3.5ポイント、外需がマイナス0.4ポイントだった。内需のプラス寄与は5四半期ぶり、外需のマイナス寄与は2四半期連続となる。

民間住宅は1.6%増加した。貸家着工の増加が影響したとみられる。民間在庫変動の寄与度はマイナス0.1ポイントだった。公共投資は前期比4.5%増で4四半期ぶりに上昇した。政府最終消費は医療費の増加などで0.1%増えた。

実質GDPは前年同期比では0.8%のマイナスだった。

日経新聞